

令和3年9月市議会定例会 提案理由説明

本日ここに、令和3年9月越前市議会定例会が開会され、提案いたしました9月補正予算案をはじめ、各種案件のご審議をいただくに当たり、当面する市政の重要課題についてご説明を申し上げ、議員各位並びに市民の皆様のご理解を賜りたいと存じます。

【東京2020オリンピック】

さて、7月23日から8月8日に開催された東京2020オリンピックに、本市出身の3選手が出場を果たし、大活躍しました。

まず、見延和靖選手がリーダーとして牽引してきたフェンシング・エペ男子団体が見事、金メダルを獲得しました。

本市では初めてのオリンピックメダリストの誕生であり、心からお祝い申し上げます。

見延選手の夢に立ち向かう情熱と、これまで積み重ねてこられたご努力に敬意を表しますとともに、市民に大きな勇気と感動を与えていただき感謝します。

佐藤希望選手は、ロンドン・リオデジャネイロに続く3大会連続のオリンピック出場であり、県勢として初の偉業達成です。

2人のお子さんの出産、子育てによるブランクがありながら、日本女子エペのトップを維持し、世界を舞台に活躍してこられたご努力に敬意を表します。

村上めぐみ選手は、小学校から続けてこられたバレーボールからビーチバレーボールに転向し、世界で戦う技と精度を磨くため、人一倍努力してこられたことに敬意を表します。

3選手には、これからも日本のフェンシング界・ビーチバレーボール界のさらなる躍進に向け、益々ご活躍されますことを心からお祈りします。

なお、本市では3選手の活躍を称え、9月26日に市内2箇所で開催を計画しており、9月補正予算案に所要額を計上いたしました。

【新型コロナウイルス感染症】

次に、新型コロナウイルス感染症対策については、感染力が強いとされるインド由来のデルタ株の急激な広がり、8月20日に全国で1日あたり過去最多の2万5,876人の感染が発表され、病床の確保が追い付かず、自宅療養者が急増するなど、医療体制の深刻さが一段と増しています。

本県でも8月25日に、過去最多の56人の感染者が発表されるなど、感染拡大が継続している状況です。

本市における感染者数も、8月に入りこれまで経験したことがない勢いで急増し、8月は1日から27日までで160人の感染が報告されています。

そこで、市ではこれまでに72回の市新型インフルエンザ等対策本部会議を開催し、全庁体制で感染防止対策に取り組んでいます。

中でも、株式会社福井村田製作所におけるクラスター発生を受け、同社に早急な対応を求めるとともに、同社と協力して感染拡大防止策を講じてまいりました。

併せて、感染拡大防止の取組みに理解を求めるため、昨年9月4日以来となる市民への緊急要請を8月11日に、また12日には武生商工会議所と越前市商工会との連名で初めて、事業所への要請を発出しました。

新型コロナウイルスワクチン接種については、8月26日時点で6割を超える対象市民が1回目の接種を済ませていることから、9月末までに対象市民の65%が2回接種を完了すると見込んでいます。

今後も県や武生医師会等と連携し、接種を希望する市民が10月末までに2回の接種を完了できるよう、円滑なワクチン接種に取り組んでまいります。

【北陸新幹線】

次に、北陸新幹線については、昨年11月に着工した「越前たけふ駅」では、7月27日から外部の足場が外され始め、8月18日には駅名標の設置及び一部を除く駅舎中央部の外部足場の解体により、本市に飛来するコウノトリをモチーフとした駅舎の外観が現れました。

同駅に併設される「道の駅」については、管理等に必要な事項を定めるため、設置及び管理条例案を今議会に上程いたしました。

北陸新幹線「越前たけふ駅」周辺の官民連携プロジェクトについては、7月30日に審査委員会を開催し、戸田建設株式会社をパートナー企業に選定しました。

8月19日には、官民連携プロジェクトを進めていくために必要な基本的な事項を確認することを目的に、市とパートナー企業、地元団体である越前たけふ駅周辺まちづくり協議会の3者で基本協定書を締結しました。

今後は3者が連携し、地権者や地元の関係団体等に丁寧に説明・協議などを行いながら、事業実施計画書の作成に取り組んでまいります。

併せて、APB株式会社の新工場立地を先行整備として推進するなど、第一期の主な進出企業候補との協議を進めてまいります。

【コウノトリの巣立ち】

コウノトリが舞う里づくりについては、下中津原町の人工巣塔において、「イチローくん」と「ななちゃん」のペアから、坂口地区で初となる野外コウノトリの3羽の産卵と孵化が確認され、安養寺町の人工巣塔から6月8日に巣立った「春花ちゃん」に続き、7月13日に「みそらちゃん」が、14日に「おうひちゃん」と「みどりちゃん」が巣立ち、坂口地区で初の巣立ちが実現しました。

本年は市内2箇所です計4羽のひなが巣立ったことを大変嬉しく思い、これまでご協力いただいた地元や関係団体の皆様に感謝申し上げます。

今後も「市の鳥」であるコウノトリの自然繁殖と定着に向け、環境調和型農業の推進や休耕田ビオトープ等の整備を通して、コウノトリが舞う里づくりを推進してまいります。

【人口減少への対応】

次に、人口減少への対応については、8月1日現在の本市の住民基本台帳における人口は8万2,276人であり、外国人市民の人口は5,198人で、人口に占める割合は6.3%となっています。

また、総務省の人口動態調査によると、本市の人口は前年比140人増加し、県内17市町で唯一のプラスとなりました。

引き続き第2期市総合戦略と市多文化共生推進プランを推進し、人口減少への対応と外国人市民との共生を図ってまいります。

それでは順次、まちづくりの5本の柱に沿って、主な取組みをご説明いたします。

【元気な産業づくり】

まず最初に、1つ目の柱である「元気な産業づくり」について申し上げます。

新型コロナウイルスの感染急拡大による消費の急激な落ち込みに伴い、市内の小規模事業者等を取り巻く環境は非常に厳しい状況が続いていることから、店舗等で利用できる電子クーポンを発行して消費を誘発するため、「えちぜんし割」発行事業に係る所要額を9月補正予算案に計上いたしました。

伝統産業の振興については、－ECHIZEN－千年未来工藝祭2021の8月28日・29日のリアル開催に向けて準備を進めてきましたが、7月中旬からの県内感染者数の急増を受け、8月6日にリアルでの開催中止を決定し、オンラインコンテンツのみの開催としました。

越前打刃物については、千代鶴国安が越前に移住した経緯や千代鶴の池の伝

説などを紹介するため、英文も記載した越前打刃物の起源をPRする案内看板を千代鶴神社に設置し、除幕式を7月12日に行いました。

また、タケフナイフビレッジ協同組合では、組合創立30周年と新館竣工1周年を記念した感謝祭を8月28日・29日に開催し、旧館売店部分を改修して整備した資料館のお披露目も行いました。

越前和紙については、旧福井銀行岡本支店跡地に篤志家の方が、来年4月に美術館の開設を予定しており、1階は東山魁夷美術館として常時20点ほどの作品を展示し、2階には地域の作家などが自由に使うことのできるサロンを設置する計画とお聞きしています。

越前和紙の里との連携による相乗効果が発揮されるよう、市も支援してまいります。

観光の振興については、コロナ禍により、依然として市内観光事業者の売上が低迷していることから、バスツアーの助成や市内体験施設の割引利用ができるクーポン券の発行等を行う観光誘客促進事業を引き続き行うため、9月補正予算案に所要額を計上いたしました。

2021たけふ菊人形については、「時を超え 花ひらく冒険記」を展示テーマに、10月8日から11月7日までの31日間開催します。

70回記念事業として、新しくお城の菊トピアリーを設置するほか、市内特産品などのプレゼント抽選会を実施するとともに、市広報9月号にOSK観劇と遊具の割引券を掲載します。

開催に当たっては、実行委員会において新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインを策定し、来場者の安全確保に努めるほか、各種イベント等の実施可否については、県内の感染状況や新型コロナウイルスワクチン接種状況等を注視しながら、判断してまいります。

また、武生中央公園大型遊具老朽化対策による魅力向上事業の一環として整備する、アストロファイターの後継機である大型遊具「コウノトリと大空散歩」や木製遊具の「モグラのトンネル迷路」、里山の倒木をイメージした「森のアスレチック遊具」を9月25日にお披露目します。

菊人形館に代わる屋内催事場についても、9月25日にオープンを予定しており、同催事場の愛称については、加古総合研究所のご協力により「まさかりどんの館」に決定しました。

紫式部と国府資料館「紫ゆかりの館」については、秋のイベントとして、10月23日・24日に「えちぜん紫式部まつり」を開催し、たけふ菊人形や紫式部公園、庁舎前ひろばと連携しながら、本市と紫式部との関わりを強くアピールしてまいります。

鳥獣害対策については、獣害対策を迅速、かつ一体的に対応する専門組織として、農業協同組合・森林組合・猟友会等の関係団体から成る市獣害防止対策ネットワークが6月30日に設立されました。

豊かな知識と経験、専門の資格を有している人材を集めることで、より迅速で的確な対策や対応ができる体制としてまいります。

災害復旧に向けては、5月17日、7月7日及び8月14日の降雨等により、農地においては圃場の法面崩壊や水門の破損、山林では林道の水路破損などの被害が確認されたため、災害復旧等に係る所要額を9月補正予算案に計上いたしました。

市環境基本計画の改定については、8月19日に表明した「市ゼロカーボンシティ宣言」に基づき、脱炭素社会の実現に向けた取組みを重点項目として着実に進めるため、計画期間における市の二酸化炭素排出削減目標の設定や、北陸新幹線「越前たけふ駅」周辺におけるRE100エリアの検討、2030年までに設置可能な公共施設の50%に太陽光発電設備を導入することなどを市環境審議会において議論しているところです。

【元気な人づくり】

次に、2つ目の柱である「元気な人づくり」について申し上げます。

市内の障がい福祉サービス関連事業者間の情報交換や連携を促進し、障がいのある人の権利擁護や福祉サービスの充実などに繋げるため、関連事業者等の賛同を得て、市障がい福祉サービス関連協議体を8月27日に設立しました。

幼保一体化による認定こども園への移行については、市子ども子育て支援計画（第2次）及び市教育施設等長寿命化方針に基づき、西及び吉野地区の公立認定こども園の整備に関して、7月30日の第2回市子ども子育て会議で引き続き協議を行いました。

西校区における公立認定こども園の整備については、建設予定地の武生西小学校プール及び武生西幼稚園の解体工事費、武生西幼稚園の活動を武生西児童センターで確保するための整備費等に係る所要額を9月補正予算案に計上し、令和5年4月の開園を目指してまいります。

吉野地区における公立認定こども園の整備については、吉野小学校を中心とし、民間園との均衡を保ちながら保護者の利便性と園児の安全性を考慮し、建設候補地を決定したことから、用地を確保するための測量及び開発行為に係る所要額を9月補正予算案に計上し、令和7年4月の開園を目指してまいります。

市子ども子育て会議委員や地元からは、吉野地区の新園への期待とともに、小学校との連携や安全性の確保、越前市らしい街並みや自然環境と調和した、

木の温もりを感じられる施設整備を望む意見をいただいております、検討を進めてまいります。

健康づくりの推進については、来年度からの集団健診の委託先を選定するに当たり、本年度中にプロポーザルを実施して3箇年の業務委託契約を締結するため、9月補正予算案に健康診査事業の債務負担行為に係る所要額を計上いたしました。

地区公民館の耐震化・長寿命化については、市教育施設等長寿命化方針に基づき、南中山公民館・児童館の耐震補強等工事を9月に着工し、来年2月に完成予定です。

また、来年度実施予定の花筐公民館・児童館の移転改築工事については、現在、実施設計業務を行っているほか、10月の完成に向けて吉野公民館の駐車場舗装工事を実施するなど、計画的な施設整備を行っています。

文化財の保護については、平成30年の法改正により法定計画として制度化された、市文化財保存活用地域計画の策定に着手します。

学識経験者のほか、伝統工芸や自治振興会等の委員から成る策定協議会を設置し、本年度から2箇年をかけて検討を行い、令和5年度の国の認定を目指してまいります。

11月3日に開催する菊花マラソンについては、第40回の記念大会となり、ゲストランナーに世界陸上トラック、マラソンの世界初の複数メダリスト・千葉真子氏をお迎えする一方、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加者数を制限するなど、縮小して開催する予定です。

武生中央公園温水プールについては、市指定管理者選定委員会での手続きを経て、指定管理候補者を選定し、今議会に指定議案を上程いたしました。

武生東運動公園陸上競技場の第3種公認更新に向けた改修工事については、7月15日に着工し、来年2月に完成、4月に更新手続きを行う予定です。

併せて、観覧席や更衣室、トイレの改修工事も進めてまいります。

【快適で住みよいまちづくり】

次に、3つ目の柱である「快適で住みよいまちづくり」について申し上げます。

定住化の促進については、本市の人口が昨年140人増加し、新住宅取得推進事業をはじめ住宅に係る各種支援制度の申込みが好調な状況にあるとともに、市内企業の旺盛な事業活動による雇用拡大を受け、従業員用共同住宅の建設が増加傾向にあるため、職住近接の推進及び生産年齢人口の確保を図る好機と捉えています。

そこで、新住宅取得推進事業及び従業員用共同住宅建設等支援事業に係る所要額を9月補正予算案に計上いたしました。

旧丹南広域農道の4車線化事業については、県とともに沿線地区・沿線町内において説明会を開催し、事業概要及び測量・調査の現場着手について地元の理解を得たため、県・市ともに測量に着手したところです。

吉野瀬川ダムについては、8月1日に吉野瀬川ダム建設・河川改修促進協議会の主催による起工式を行い、県が本格的にダム本体工事に着手し、令和7年度の完成を目指しています。

また、吉野瀬川河川改修事業については、家久町の同意を得たため、県が7月5日に工事請負契約を締結し、家久大橋上流部の右岸において、護岸工事に着手したところであり、治水対策が着実に進捗しています。

水道事業については、本年度より日野川地区水道用水供給事業の供給単価が低減されたことから、その恩恵をいち早く市民に還元するため、市水道料金協議会を4月に設置しました。

「水道料金改定の算定期間の設定」「具体的な水道料金の検討」「実施時期」について検討するため、同協議会を4回開催し、7月30日に答申をいただきました。

この答申を踏まえ、水道料金を10月1日から引き下げる条例の改正案と補正予算案を今議会に上程いたしました。

下水道事業については、南越清掃組合のし尿・浄化槽汚泥と家久浄化センターの汚泥処理の共同化に向け、家久浄化センター内に建設する機械濃縮施設について、8月20日に日本下水道事業団と建設工事に係る協定を締結し、11月からの工事着手に向けて準備を進めています。

【安全で安心なまちづくり】

次に、4つ目の柱である「安全で安心なまちづくり」について申し上げます。

外国人市民防災リーダーの養成については、本年度は10人の応募があり、9月9日と16日に研修会を開催します。

原子力防災対策については、1月に策定された美浜地域の広域避難計画の実効性を確認するため、10月下旬に県原子力総合防災訓練が実施されます。

本市は、関西電力美浜発電所3号機からほぼ市全域がUPZ圏内に位置しているため、外国人を含む市民の広域避難や屋内退避等の訓練に参加します。

また、外国人市民に対する原子力災害の情報伝達について、県の市町原子力防災対策事業支援補助金を活用し、平易な内容で多言語に翻訳した市原子力防災のしおりを作成するため、9月補正予算案に所要額を計上いたしました。

【市民が主役のまちづくり】

次に、5つ目の柱である「市民が主役のまちづくり」について申し上げます。

多文化共生社会への取組みについては、8月1日現在の本市の外国人市民の数は5,198人で、人口に占める割合は6.3パーセントと高い水準です。

そこで、外国人を多数雇用している企業や集住3地区、仁愛大学の代表等の参加を得て、7月16日に「多文化共生推進に係るトップミーティング」を開催しました。

ミーティングでは、外国人児童や園児が多く在籍している武生西小学校と上太田保育園の教育・保育現場を視察し、現状を理解いただくとともに、市多文化共生推進プランの一層の推進に向けて意見交換を行い、協力を約束いただきました。

【地方分権に対応した行財政運営】

次に、「地方分権に対応した行財政運営」について申し上げます。

昨年度3月補正予算において、市税6億7千万円を増額補正しましたが、決算においてさらに約2億2千5百万円上振れしたため、繰越金が約9億円となりました。

本年度も、税収の上振れが見込まれることから、9月補正予算案において、繰越金の半分以上の5億円を財政調整基金に積み立て、財政基盤のさらなる強化を図り、健全財政を維持してまいります。

【結びに】

以上、当面する市政の重要課題への対応について、その取組みの一端を述べさせていただきました。

引き続き「現地現場主義」をモットーに、市民と協働のまちづくりを職員と一丸となって推進し、「元気な自立都市 越前」を築いてまいります。

何とぞ、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

なお、議案第47号から議案第62号までの提案理由については関係部局長よりご説明申し上げます。